

### 3 「府中市地域包括支援センターこれまさ」における地域ケア会議の取組のポイント

- 本事例は、地域包括支援センターが開催する「個別ケースを検討する地域ケア会議」の具体的な運営内容について紹介するものである。
- 「府中市地域包括支援センターこれまさ」では、これまでも介護予防事業や地域支援ネットワークの事業等を通じて、地域づくりや、自治会員等地域の関係者との信頼関係づくりを進めてきた。
- こうした取組みを土台とし、地域の課題を関係者で協力して解決するために「地域ケア会議」を活用している。
- 地域ケア会議には、原則として本人又は家族が出席し、民生委員や自治会・老人会の方、近隣住民など、本人の生活に直接関わりのある地域の関係者が集まって本人のため各自ができることを話し合っている。
- 地域ケア会議をきっかけとして、地域の関係者同士の顔のつながりができ、地域ネットワークがより一層強化されるという好循環が生まれている。

# 地域で暮らし続けるために... Yさんの場合

## ～地域ケア会議の取り組み～

府中市地域包括支援センターこれまさ  
センター長 伊東 光子

## 府中市の高齢者の現状と地域の支援体制

- 府中市全体 人口 252,630人(平成25年10月1日現在)

年齢区分	人口(人)	人口に対する比率	単身世帯数(世帯)	独居率(%)
65歳以上	50,089	19.8	13,548	27.0
75歳以上	23,690	9.3	8,109	31.8

- 担当区域 人口 21,956人(平成25年10月1日現在)

年齢区分	人口(人)	人口に対する比率	単身世帯数(世帯)	独居率(%)
65歳以上	4,288	19.5	1,090	25.6
75歳以上	1,920	8.7	607	31.6

地域包括支援センター 委託11ヶ所

1ヶ所の平均 高齢者人口 4,281人

職員体制 5人～10人(非常勤を含む)

## 府中市が取り組む独自の事業 → 予防事業中心だが地域づくりにも関連

### 介護予防関係

- ▶ 地域デイ事業（生きがいづくりのほっとサロン）
- ▶ 介護予防推進事業（心と体の健康チェック）
- ▶ 介護予防コーディネーターの役割（府中市独自のシステム）

### 地域支援ネットワーク

- ▶ 一人暮らし高齢者等地域支援事業  
（住民主体の交流サロン等）

「コミュニティカフェこれまさ」「こやなぎサロン」を実施



## 事例

### Yさんの場合

#### <生活歴>

78歳、女性。現住所地に約40年住む。長男、次男をもうけ現在はそれぞれが独立、夫は15年前に死去、一人暮らしとなった。5年位前より徐々に認知症が出現、日常生活にも影響が出始めていた。「地域包括これまさ」とは「ほっとサロン」や地域の交流サロンの利用者として馴染みの関係があり心配ごとの相談窓口でもあった。既往歴は心疾患、腰痛だが定期通院はしていない。キーパーソンの次男の嫁と孫は時々、来訪。

※個人情報に配慮し、事例を一部加工して紹介しています。



## <経過1>

### →Yさんが送っていた毎日

子供たちのために公園のベンチを掃除。  
道路清掃やゴミ拾いなど進んで行っていた。

### →地域は

戸建住宅中心だがマンションも増えてきた。  
自治会・老人会の活動が活発。

### →そして事故が！

自宅階段から転落、救急搬送。  
腰部圧迫骨折により自宅療養。痛みの訴えは続く。  
介護保険申請へ...

---



## <経過2>

### →介護保険サービス利用へ

ケアマネージャーに依頼し暫定プランで利用開始。

### →認知症の進行

一人でいる不安が増幅、泣く、怒るなどの感情失禁や  
幻覚妄想。骨折で動けないはずが寝巻のまま外に。

## <経過3>

### →近所からの通報が包括に

薄着でベンチにいるが戻れない、近所の人が家まで送る。  
知らない人の出入りや鍵の紛失、防犯上の問題も。  
近所の対応は？

### →何とか対策を！～第1回地域ケア会議の開催～

家族、民生委員、自治会、老人会、近所の人、ケアマネージャー、訪問介護、市職員、包括(主治医は書面参加)が今後の対策を協議。在宅生活維持に向け意見交換。  
継続的な支援体制を勧めることに。

## <経過4>

### →個人情報の扱い ～第2回地域ケア会議～

本人の安心安全面を配慮し必要と判断した情報は活用、  
家族と関係者間で同意書。

### →支援体制の内容を検討

Yさんの家が居間から見える人、老人会の仲間、民生委員など見守りの役割を決めた。

## <そして、今>

- その後も必要に応じ、関係者とミニ地域ケア会議を開催。
- 近所の人からの通報は必要なこと以外、包括に入らなくなる。
- Yさんは介護保険サービスと近所の人に見守られ、在宅生活を送っている。
- 認知症への対応は専門医を受診、服薬により安定してきた。

これからもYさんは知り合いがたくさんいる地域で暮らし続けることができる。

## <個別課題解決から 地域ネットワーク体制の実現に>

“地域に縁台を作りたい”（自治会副会長の発言）

- 世間話から知るお互いの気持ち、住み続けたい気持ちを意識化
  - どうしたら実現できるか = 共助
  - 包括⇒介護予防事業でたびたびおじゃま、元気高齢者と知り合うきっかけに
  - 地域にとっては気楽に相談できる身近な存在
- ↓
- 住民相互が支え合う気持ちの醸成
  - いざという時の連携へ...「地域ケア会議」開催
  - 専門職も地域の人もお互いを知る機会、目的の共有
  - 地域課題解決の第1歩が始まる